

国際交流サロン

7月は「チョコレートの発祥地探し」です。さあ、世界のことを知って交流を始めましょう。

モノ/コト	チョコレート
発祥地	古代メキシコ。カカオの木は中央アメリカから南アメリカの熱帯地域の丘陵地に自生していました。カカオ豆は「神様の食べ物」といわれ、通貨にしたほど大変高価なものでした。
いつごろ	紀元前1900年ごろから。野生のカカオ豆をすりつぶし、ドロドロのショコラトル(苦いチョコレート)を食した。
誰がはじめたか	グアテマラのリオ・アスール文明、マヤ文明、アステカ文明の人々はカカオ豆をすりつぶし、トウモロコシの粉やスパイスを加えて飲んでいましたが、遺跡の土器、壁画、石碑から判っています。1528年、フェルナンド・コルテス将軍が、メキシコから、スペインにカカオを持ち帰り、ヨーロッパに広まり、砂糖を加えて甘いチョコレートになりました。



◀陶芸体験中のバンコクのロータリークラブのみなさん

外国人かさまの祭り交流会の参加者募集

8月17日(土)に笠間市国際交流協会では、「外国人笠間のまつり交流会」を開催します。希望する外国人の方には、浴衣やはっぴの着付けのサービスが受けられます。祭りをとおして、日本の伝統文化を身近に体験できる交流会です。行幸会(みゆきかい)の協力で神輿(みこし)を担ぐ体験もできます。参加希望の方は8月10日(土)までに電話または笠間市国際交流協会 Facebookでお申し込みください。当日は午後4時に笠間駅前に集合してください。

問合せ：一般社団法人 笠間市国際交流協会 TEL090-2761-8711 (木村 美枝子)

8月の国際交流情報

8月17日(土)

外国人笠間のまつり交流会

会場：笠間市内まつり会場

時間：午後4時～9時

☆8月の日本語教室の開講日

8月3日(土)・10日(土)・17日(土)

(友部公民館 午前10時～)

石の輝き

市長コラム



表慶館(東京国立博物館内)
明治44年設計/片山東熊+高山幸次郎 重要文化財

笠間市稲田地区は日本有数の花崗岩(御影石)の産地であり、日本を代表する歴史的建造物や神社、仏閣はもちろんのこと、近現代では地下鉄や最高裁判所、第一生命ビル、日本橋、東京駅、国会議事堂などにも使用され、御影石を使用した建造物は数に限りがありません。石の持つ重厚さや趣き、そして石特有の輝きは日本人の心を魅了し続けています。

また、稲田地区の石材は地場産業としても、地域経済に大きな貢献をしてきました。しかし、こ

20年近く、低価格の外国産石材に押され、県内石材産業は大きく衰退し、稲田石材商工業協同組合の加入件数も最盛期の半分(約60件)に減少してしまいました。

また、残念なことに最近では、公共・民間事業を含めてコスト優先のために、割高な国内産は敬遠され、外国産の活用が中心となってきました。組合では、各イベントへ参加してPR事業に力を入れるとともに、匠の技の継承等、石材業界の振興に取り組んでいます。

笠間市としては、地場産業の振興として公共事業への活用や、現在つくば市他3市で進めている「筑波山地域ジオパーク構想」への加入、更に稲田駅隣接地へ「石の百年館」を移設するなど石の街づくりを進めてまいります。

石については「石の上にも3年」、「石橋を叩いて渡る」など、堅さ、慎重さ、意志、頑固さ等をイメージすることわざが多く、昔から人々の生活の傍らにあったことを今に伝えています。

市としても、石の振興に頑固に施策を推進してまいります。

笠間市長
山口伸樹